

市内にIT企業などのサテライトオフィスが増えることによる、若者の雇用の場・創業機会などの提供を目指して、9月15日から17日にサテライトオフィス誘致のための市内視察ツアーを実施し、首都圏IT企業など6社9人が市内を訪れました。

2泊3日の視察では、わらび座のシアターエデュケーション体験、市内企業の訪問、農家民宿の宿泊など、市内の魅力を見て回りました。ツアー参加者の感想では、観光地としての魅力、人の温かさ、行政との近さを評価していただきました。今回のツアーに



田口市長との意見交換。

サテライトオフィス誘致促進事業

サテライトオフィス誘致  
市内視察ツアー



わらび座のシアターエデュケーション体験の様子。

参加して仙北市を気に入り、市内進出を真剣に検討するため、当初の予定を変更して12月のツアー参加を決めた企業もありました。

一方、地域におけるよそ者感や雪国特有の冬道運転などの生活面の不安、「必要な人材が採用できるか」や「具体的な進出する事務所物件が少ない」などの経営上の不安も述べられました。次回12月のツアーには今回とほぼ同じ企業が参加しますので、市としては、参加者が抱く不安に丁寧に対応して、市の魅力を訴求して参ります。

9月17日、デジタル人材育成講座発表会。成講座の成果発表会が角館交流センターで開催されました。当講座では、高校生から社会人の受講生7人が、スマートフォンアプリの開発体験を通じたITスキルの習得を目指し、7月からこの日を含めて全3回の講座を受講しました。

受講生は3チームに分かれて、地域課題を解決するスマートフォンアプリを開発し、その内容を発表しました。各チームからは、市デマンド型乗合タクシー配車アプリ「イゴーカー (igo car)」、市内温泉の口コミアプリ「Onsen info」、学校購買の置き注文アプリ「COBER EATS」というアイデアで試作されたアプリの発表がありました。

発表会には、サテライトオフィス誘致市内視察ツアーで市内を訪れた首都圏IT企業なども参加しました。企業からは実務経験にもとづく助言が行われ、中には「アプリへの投資を検討してもよい」という発言も出て、会場を沸かせました。

ご興味がある方は、試作アプリを限定公開（11月15日(火)まで）しますので、以下の二次元コードからお試ください。なお、短時間にゼロから制作した試作品のため、完成度についてはあらかじめご容赦ください。

【受講生がゼロから制作した試作アプリ】



イゴーカー (igo car)



Onsen info



COBER EATS



受講者の発表の様子。

デジタル人材育成講座発表会

スマートフォンアプリで地域課題に挑む

メイクの心理的効果

メイクアップ講座



講師の話に熱心に聞く受講者の皆さん。

株式会社ポーラと仙北市は、地域における温泉や自然、資源の有効活用、産業振興および市民の健康増進を図ることを目的として、平成30年5月に健康・美のためのヘルスケアに関する連携協定を締結しています。

これまで、高齢者施設などでの健康・美容講座、田沢湖クリーンアップ清掃活動後のハンドトリートなどを実施してきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症感染拡大以降、対面での活動の実施が難しく、連携協定の取り組みを休止していました。

この度、取り組みを感染症対策を行いながら再開し、その第一弾として、9月27日にメイクの心理的効果を学ぶ、市職員向けメイクアップ講座を開催しました。メイクが心理面に与えるよい効果に関する講義の後、ナチュラルメイクのレッスンを受け、身を持ってメイクの心理的効果を実感しました。

受講した職員は観光・福祉の事業分野で今後活用していく予定です。今回、感染症対策を行いながら無事に開催できたため、今後は市民の皆さまに向けたメイクアップ講座などを実施していく予定です。



一般の部で最優秀賞に輝いた高橋愛実香さん。



年少者の部で最優秀賞に輝いた高橋杏里さん。

9月25日、市民会館を会場に第35回生保内節全国大会が開催されました。

この第35回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間延期し、開催にあたっては準決勝を行わずアトラクションを縮小するなど、以前は2日間としていた大会日程も1日に短縮したほか、観客席も間隔をあけるなど感染症予防対策を実施しての開催となりました。

今大会には、一般の部に113人、年少者の部に19人が出場し、日頃の練習で鍛えられた歌声と節回しが披露されました。

一般の部では、予選を通過した10人による決勝が行われ、秋田市から出場した高橋愛実香さんが最優秀賞に輝きました。愛実香さんは、第26回大会の年少者の部でも最優秀賞に選ばれています。

また、年少者の部では男鹿市から出場した高橋杏里さんが最優秀賞に輝き、一般の部で最優秀賞の愛実香さんと姉妹で最優秀賞に輝きました。

他の入賞者は下記のとおりです。(敬称略)

自慢の歌声と節回しを披露

第35回 生保内節全国大会

- ▶ 一般の部
  - ▶ 優秀賞 / 菅原桃香 (男鹿市)、大川あけみ (秋田市)、高橋惇 (由利本荘市)、山上衛 (石手県盛岡市)
  - ▶ 敢闘賞 / 遠藤陽子 (秋田市)、田口亜澄 (湯上市)、高橋さとみ (由利本荘市)、成田義道 (鹿角市)、金子友紀 (神奈川県綾瀬市)
- ▶ 年少者の部
  - ▶ 優秀賞 / 山田千尋 (秋田市)、石川空青 (秋田市)、江端菜沙 (東京都中野区)

北秋田市鷹巣のゴールを目指して



暗い中、角館交流センターを一齐にスタート。

100キロチャレンジマラソン

9月25日、角館町から北秋田市鷹巣までを走破する「第30回北緯40度秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン」が開催されました。

100キロの部には県内外から675人が出場、まだ暗い夜明け前の午前4時30分に角館交流センターをスタート。また、232人が出場した50キロの部は、北秋田市の内陸線比立内駅近くを10時30分にスタートし、100キロの部と同じ北秋田市鷹巣のゴールを目指しました。

ランナーたちは、爽やかな陽ざしが降り注ぐ中、すっかり秋の景色となった道のりを自分のペースを確認しながら快走していました。

沿道では住民が「頑張れ」などと声援を送る姿が見られ、コースに設営されたエイドステーションでは、スタッフが飲み物などを立ち寄ったランナーに渡しながらか励していました。

仙北市×秋田県解体工事業協会

災害時の応援協力に関する協定を締結



秋田県解体工事業協会の小野雅敏代表理事（右）と田口市長（左）。

9月29日、仙北市と一般社団法人秋田県解体工事業協会が大規模災害時や事故・火災など発生時における応援協力に関する協定を締結しました。

これは、市内で大規模災害が発生した場合に迅速な災害復旧対策に取り組むために、同協会が所有する建設機械の提供やオペレーターなどの技術員派遣のほか、応急活動に必要な業務など応援協力に関する具体的な事項を定めたものです。

今回の協定にあたり小野雅敏代表理事は「このような協定を締結できたことは、仙北市の防災対策の強化につながり、今後の地域住民の安全安心の確保のため大変意義深いものと考えている。当協会としてもその期待に応えられるように解体業界の持つ独自性をいかした活動を展開し、地域社会に貢献していきたい。また、災害時における市民の安全安心に寄与していきたい」と話しました。